

高齢者の就労支援について

民主党 藤井 俊行

問 シルバー人材センターの支援策はどうなっているのか。また、高齢者も戦力として考え、市の事業に市役所や民間企業のOBが働けるよう制度づくりに取り組むべきではないか。特殊性のある技術職である一級建築士、設計士、測量士、ICT技術者等の有資格者を積極的に採用し、繁忙期の体制を強化すべきではないか。

答 市としてのシルバー人材センターへの支援については、先の政府行政刷新会議の事業仕分けにおいてもシルバー人材センターの援助事業が対象となり、評価の過程で補助金の削減と人件費や管理費の減額などを含めた改革が求められ、現下の社会情勢のもと経費の節減を含め一般企業やNPOに打ち勝つ経営戦略が

2点目については、事業期間の平成28年度までに事業を完成させることが責務と考えている。そのためには、関係地権者の意向を確認しながら事業計画変更の手续に入り、平成23年度内を目標に事業認可を取得し、工事に着手していきたい。

また、土地利用計画については、可能な範囲で地権者の意向を取り入れていき

また、土地利用計画について、可能な範囲で地権者の意向を取り入れていき

職員の意識向上について

流政会 松野 豊

問 たび重なる職員の不祥事の根底にある要因は、地方分権の進展や住民ニーズの多様化等、自治体を取り巻く環境変化によって、職員ひとりひとりにかかるストレスが増大していることと起因していると考えられる。

ンプライアンス研修を初め、係長、主査クラスの中堅職員を対象とした公務員倫理研修、さらには職員のモチベーションを高め、意識づけできるような研修の充実を図るとともに、管理職の登用に当たっては、昇任研修や面接の充実により職員個々の特性を踏まえて適正な人事配置を行っていきたいと考えている。なお、流山市人材育成基本方針については、策定してから5年が経過しているの見直し

西平井・鱒ヶ崎地区土地画整理区域内における権利制限と責任の所在について

流政会 山崎 専司

問 地権者の方々に長年にわたり建築規制など非常に厳しい権利制限を加えていること、どのような認識を持っているのか。

このため、地権者の皆様から建築等の相談があった場合には個々に協議を行っており、基準の範囲内で許可をさせていただいている。今後とも地権者の皆様から建築等の相談があった場合には、誠意を持って対応していく。

また、現在の計画期間である平成28年度までに事業が完了しなかった場合、市として責任の所在をどのように考えるのか。

答 1点目の地区内の宅地については、土地画整理法第76条の規定に基づき、

なお、今月中にも鱒ヶ崎地区の地権者の方々へ見直しの素案の説明、そしてご意見を伺っていく。



西平井から鱒ヶ崎方面を望む

ホームページ等の情報発信の更なる充実策について

民主みらい 松田 浩三

問 最近、多くの先進自治体においてインターネット上の動画共有サイトで行った情報発信のPRを配信することにより、多くの成果が認められる。本市においても行政情報発信の充実を図るため動画共有サイトの積極的な活用に取り組みべきと考えるがどうか。

また、市民参加の流山版ふるさとCM大賞等に取り組みはどうか。

ふるさとCM大賞等の映像コンクール開催については、肖像権、音楽の著作権等に細心の注意が必要となる。市が作品の募集を行った場合、映像内容を精査することになるが、その優劣の判断基準を明確化する点においても課題がある。このため、ふるさとCM大賞等の映像コンクールについては、先進事例を参考にしながら、節目の記念行事等で開催を含め検討していきたい。

名都借跨線橋について

改革21市民クラブ 田中 美恵子

問 昭和41年の設計指針に則って建設されたこの橋は現在も耐震基準に適合しているのか。平成17年に国土交通省の緊急輸送道路の橋梁耐震補強3か年プログラムが出されているがどこまで達成されたのか。名都借跨線橋に代わる3・4・10号線の完成までまだ先が長い。今後の名都借跨線橋の維持管理方針についてどの様に考えているのか。

答 名都借跨線橋は昭和41年の設計指針に則って設計されており、この旧耐震基準では震度5程度を想定している。一方、現在の耐震基準は、兵庫県南部地震後の平成14年に定められており、震度6程度を想定している。したがって、名都借跨線橋は旧耐震基準で設計されているため、現在の耐震基準で想定する大規模地震が起きた場合落橋の可

流山市は子育ての根本の考えが間違っている

民主党 堀 勇一

問 男女共同参画において当局は、「育児を受ける幼少期の子どもは、父親よりも母親から愛され世話をされたい」という事実を認めないのであるがどうか。

出産し、母乳を飲ませるといふ母親の特性、人間以外の動物でさえ持っている偉大なる母性というものを認めないということであるがどうか。

議員の言われた母性や母と子の絆というものにまったく反論するものではなく、まったくそのとおりだと思ふ。ただし、育児においても父親と子どものきずなも大事だと思ふ。



議会アンケートを実施しています。傍聴の際にはご協力をお願いします。